

埼玉県立近代美術館サマー・アドベンチャー 「光るたまごをつくろう!」

2021年8月7日(土) 講師:みょうかさん



埼 玉県立近代美術館で開催された夏休み特別版ワークショップ「サマー・アドベンチャー」の一環である「光るたまごをつくろう!」にお邪魔してきました。

今回のワークショップは去年の3月、今年の3月にワークショップ「MOMASのとびら」にて開催される予定でしたが、緊急事態宣言の発出を受け、中止となってしまいました。コロナ禍で先の見えない時期が続きましたが、みょうかさんと美術館職員の方々は「ワークショップを必ず実施したい!」と思い続け、今回ようやく「サマー・アドベンチャー」として実施されたという経緯がありました。

今回は小学生とその保護者の方が対象のワークショップで、抽選で選ばれた5組10名の方が参加しました。内容は、参加者の方々が自分の発想を広げながら、たまご型のランプを作るというものでした。午前中に作品を作り、午後は出来上がったものを参加者全員で鑑賞して楽しむ、という流れでした。これまで色々なワークショップにお邪魔してきましたが、今回特に感じたのは講師のみょうかさんと主催者側の埼玉県立近代美術館の方々の連携が抜群だったということです。美術館だからこそ味わえるワークショップ。その参加者の方々への細やかなフォローがありました。

ワークショップの用具や材料といった細かいところなど、随所に工夫が見受けられました。参加者が作品づくりの途中で「どうしたらいいのかな?」と悩んでいると、さりげなくフォローに入り、作品づくりを進めていくヒ

ントを与えることで、和やかな雰囲気がさらに深まりワークショップは進んでいきました。

講師のみょうかさんの作品の雰囲気とも合っていると感じました。現在のコロナ禍において、美術館のワークショップに親子で参加することは難しくなっているかもしれません。そのような中で、親子と一緒に作品を作っていくというのは夏休みの思い出にも相応しいと感じました。また、「手がベタベタする～」と言いながらも、小学生の参加者たちが嬉しそうに和紙をでんぷん糊で糊付けする様子も、いいなあと感じました。IT化が進んでいる現代において、日本文化である、和紙を糊付けするという経験自体が貴重になっているからです。

出来上がった「光るたまご」を鑑賞するための別室に移動する前にそれぞれ、参加者たちが自身の作品のテーマを語っていききました。親子でも個性は様々。お子様、保護者の方、一人ひとりが1アーティストとなって真剣に作品のコンセプトを伝えていました。そして、別室へ移動してよいよ作品鑑賞。明るい中で見ていた作品たちが、別の作品のようにも見えました。作品鑑賞を終え、参加者の方々が、作品をご自宅でどのように飾るのか楽しそうに話している姿が印象的でした。



「作品づくりの様子」真剣にたまごの巣をどうするか考えています。



「別室での作品鑑賞」美術館の本気を感じました。



完成した作品。